

傘寿翁の生涯青春

木原 伸雄(マルコシ創業者)



大学で学んでみようか

わたしたちの青春時代は家業の手伝いが忙しく、言いがたしいが勉強の時間は与えられなかった。小学校時代も中学校時代も学校から帰ると農業の手伝い。それが当たり前で前の世の中からは疑問も持たず、夜なべは草履をついていた。高校は一年で中退、祖父母を助けて働いた。四十四名の同級生で大学進学者が一名。高校は四名。人間は面白い生きものだ。八十歳になった。ソフバンクが経営する「サイバー大学」という。登校しなくてもよい。

新たな価値を創造し… 授業料はさほど高くない

「先端の技術が学べる…」とあり、一〜二年は教養科目、三〜四年で専門科目を学ぶ。仕事や家庭の都合で最長八年まで在籍できる。教養科目はキャリアデザイン、自然科学、人文科学、外国語科目とある。専門科目はテクノロジークラス、ビジネスコース、ITコミユニケーションコースと三コースに分かれる。しかしカタカナの多いこと。スマートフォンやタブレットが映像や音声を伝えてくれる。一週間の受講管理モデルが示してあるが、生活に組み込んでしまえば易しい。

学費は入試料などを含めて年間三十五万三千円、二年目から六年目まで二十四万三千円、合計百五十六万八千円掛かる。開学は二〇〇七年四月、経営はソフバンクだから怪しくはない。いい歳をしてと笑われようが、顔を合わすことはないから平気である。ただし、今年は申し込みが間に合わないし、時間の調整も必要だ。来期入学するとして卒業が順調にいつて八十八歳の米寿になる。認知症予防のねらいもあり、無事に卒業までたどりつけば孫にも自慢が出来る。

私の町の楽しいニュース フォーラム forum

NEW
マルコシ宣言
Nothing NO!

わたしの町のフォーラム 3万2000世帯へお届けしています

URL: <http://www.marukoshi.jp>

マルコシ リフォーム 検索

■豊かな街づくりを願って、安心創造企業「マルコシ」がお届けしています。
■配布地域/安佐北区 中区 東区
■年4回発行。
■編集・発行/マルコシ・フォーラム編集室
〒739-1731 広島市安佐北区落合4-1-7 ☎843-9981

住まいの物語 新春 ～床の間はなし～

日本家屋には床の間が似合う

十月に完成したリフォーム工事で、久しぶりに床の間の仕事をさせてもらった。床の間を配した和室は日本建築に欠かせない大切な場所と思っている。最近残念だが和室から洋室へのリフォームが増えている。若い世代で床の間どころか和室や畳不要論も少なくない。畳の上で育った世代としては、あつたと思うが、残念ながら遺構など見当らず推測の域を出ない。桃山時代以降、住宅様式が寝殿造りから書院造りに発展する過程でカタチが整

えられ、違い棚や書院などとセットになって構成された座敷飾りであろう。もともと茶室や簡略化された和室などには、床の間の単独で構えられている。寝殿造りの遺構はまったく発見されていないので、詳しく知るにはその時代に行なわれた行事や儀式に関する記録、物語、絵巻物などから復元を試みるしかないがはつきりしない。寝殿造りのインテリアを絵巻物などで見ると、面白いことに気付く。畳などの敷物があつて、周りには違い棚、唐箱、鏡箱、鏡台、教則など配置されている。このほか随所に几帳や屏風が立てられている。後世のように間仕切りなどの固定した界壁はなく、家具や調度品を配置して、生活が機能していたように思われる。極めて開放的な空間だったのではない。

床の間の形式

若い世代は床の間についてどのように考えているだろうか。生活者はおもかくても造られる南側が縁側として、住まい作りを仕事で西座敷、正面左から書院、床、床脇と並ぶのが定石である。ただし南側に庭が作られると、樹木の性質から庭木の裏を見ることになる。床の構造形式には蹴込み式と框式があるが、現代では框式が多い。床脇は上に天袋、下に地袋という戸棚があり、その間に段違いの二段の棚板を取り付けられている。この棚を「違い棚」と呼ぶ。書院のルーツは書斎だという説がある。窓に向けて机が造り付けになっている。「出文机」と呼ばれていた。本来の機能と離れて座敷飾りの一つになったが、緑側に向かって造り出された机状に地板を置き機能性の名残りをとどめている。ほかに机状でない単に明

「産」は、床柱によく似合う。自然の優美さが醸し出す風合いは、見る人の心をやさしく包んでくれる。さつそく床の間には軸が掛けられ、優美な花が辺りを彩る。住む人の人柄が滲み出て好ましい。

床の間のルーツは？

床の間の歴史は遠く上代からあつたと思うが、残念ながら遺構など見当らず推測の域を出ない。桃山時代以降、住宅様式が寝殿造りから書院造りに発展する過程でカタチが整



安佐北区亀崎 F様邸



伏見稲荷大社御茶屋



二条城二の丸御殿大広間

一般的に床の間は座敷はもちろんだが、縁側と関連しても造られる南側が縁側として、住まい作りを仕事で西座敷、正面左から書院、床、床脇と並ぶのが定石である。ただし南側に庭が作られると、樹木の性質から庭木の裏を見ることになる。床の構造形式には蹴込み式と框式があるが、現代では框式が多い。床脇は上に天袋、下に地袋という戸棚があり、その間に段違いの二段の棚板を取り付けられている。この棚を「違い棚」と呼ぶ。書院のルーツは書斎だという説がある。窓に向けて机が造り付けになっている。「出文机」と呼ばれていた。本来の機能と離れて座敷飾りの一つになったが、緑側に向かって造り出された机状に地板を置き機能性の名残りをとどめている。ほかに机状でない単に明

人生を豊かにする『菜根譚』のことは

第四章

人生を豊かにするために

■心が充実していれば、人生は楽しい

■利益に進んで飛び付く善行は人に後れをとるな

■友は得がたいもの。古い友人を大切にせよ

■古くからの友人とは、つねに新しい気持ちで付き合いたい。お年寄りには以前よりもいっそう労わりの心をもって接したい

■節操の固い人物は自から進んで幸福は求めないが天はその心に惚れ込んで窓を開いてくれる。

■立派な人物になりたいと思つたら偉くなりたいたいと思わぬこと

■立派な人物になりたいと思つたら、下らない野心は捨てることだ。それだけで一流の人物と言つてよい。

■人生の海は果てしない今を楽しむのが安らかに生きるコツ

平成30年

今年の抱負

2018年

<p>大西 由貴</p>	<p>山野 幸恵</p>	<p>木原愛一郎</p>	<p>金本 和宏</p>	<p>江原 文男</p>	<p>岡元美紀恵</p>	<p>木原 淳</p>
	<p>木原 伸雄</p>	<p>江原 香子</p>	<p>安心立命 木原 隆男</p>	<p>明蘭園達 永田 美絵子</p>	<p>温故知新 東田 光夫</p>	<p>有島英行 平見 孝志</p>